

区民協働のあり方検討会議の進め方

第 1 回（7 月 5 日開催）

地域の活動主体の「課題」と「長所」の分析

地域に存在する**活動主体**として、つぎの 6 種類を設定。

町会・自治会、地区区民館・同運営委員会、NPO、ボランティア団体、事業者、学校・学術機関、区それぞれの、活動の**課題**と、他の活動主体と比較した**長所**として指摘されている事柄を分析した。

**第 2 回**（7 月 21 日開催）

地域の活動主体同士の「課題」と「長所」の組み合わせから生まれる、「課題解決」につながる新しい協働の可能性の探究

ある活動主体にとっての「課題」を、他の活動主体の「長所」と組み合わせること
で解決につなげる、**新しい協働（課題 × 長所 = 解決可能性）の可能性を考える。**

各委員が、自身の属する活動主体の「課題」に対し、他の活動主体の「長所」で、当該課題の解決につながる協働が可能な組合せを探究した。

**第 3 回**（8 月 3 日開催）

地域の活動主体同士の「新しい協働」の具体的な取り組みの創造

新しい協働の可能性を持つ組み合わせを活用し、**「課題」×「長所」「課題解決」の具体的な取り組みを創造する。**

各委員が、自身の属する活動主体の「課題」と、他の活動主体の「長所」の組み合わせから、他の活動主体と力を合わせて実現してみたい（できたら良いと思う）課題解決の事例を、**5年後の練馬区を想定した未来新聞**として、5W1H、結果、成果、今後の展望などを記事形式でまとめた。

第4回(9月5日開催)

「新しい協働」の実現を妨げる要因(現実とのギャップ)と対応策の検討

1 ワークの目的

現実において、「新しい協働」を実現しようとする際、妨げとなる要因を明らかにし、その対応策を分析することを通じて、地域の活動主体の協働を推進するために、各活動主体や区が取り組むべき方向性を整理する。

2 ワーク内容・手順

(1) 内容

前回のワークで創造した具体的な取り組み事例等を参考に、「新しい協働」を**実現しようとする際、妨げとなる要因=現実と目標のギャップ**を抽出し、「区民と区の協働に向けた課題」として整理する。

その上で、**実現を妨げる要因を乗り越え、地域の活動主体同士の協働を推進する**には、どのような**対応策**が必要かを分析する。

(2) 手順

資料3「『新しい協働』の具体例(未来新聞)の実現を妨げる要因の抽出」により、未来新聞の事例を実行する際の妨げとなる事柄を挙げる。



妨げとなる事柄の中から、「協働を推進する際に」**妨げとなる要因**を抽出する。



資料4『「新しい協働」の実現を妨げる要因』



資料4で挙げられた要因を参考に、ワールドカフェ方式により、討議を行う。

ワールドカフェの進め方

- ・討議テーマは、「1(新しい協働の)開始時の状況」、「2(新しい)協働のプロセス」の2テーマとする。
- ・全体を4班(テーブル)に分け、出席委員および区職員はいずれかの班に着席、1班あたり3~4人程度で討議を行う。
- ・討議は1セット15分、計3セット行う。セットごとに席替えし、組み合わせを変えながら討議を行う。その際、各班に配置されたファシリテーター役のみ当該班から動かず、各セットの冒頭で、当該班における、これまでの討議状況や出された意見等について情報提供し、新たな討議の参考にする。
- ・3セット終了後、各班ファシリテーターから、まとめの発表を行う。

第5回(9月28日開催予定)

報告書まとめ(第1回~第4回までの討議を参考に、報告書提言を整理する)